

こたばの力 からだの力 こころの力
園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和4年4月8日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園
「躍動の4月」

いよいよ躍動のとき、令和4年度が始まりました。保護者の皆さまとは「共に育てる」パートナーとして、どうぞよろしく願いいたします。

また、子どもと共に育つ保育者、そして幼稚園をめざして、一日一日を丁寧に積み重ねながら、「初心の更新」を意識して教育に向き合っています。「この幼稚園に通わせてよかった！」と安心していただけるよう、教職員一同励んでまいります。

4月4日(月)、入園式と進級式が開催されました。新たな出会いが始まりました。いい出会いにするために、大人の知恵が必要です。「うわあ、いい先生やね、お母さんは大好きやわ！」なあって話していただけると、お子さんも安心して園生活を始めることができます。間違っても「ええ?!」と不安や心配の声をそのまま子どもの前で聞かせないで下さい。聞いていないようでよく聞いているのが子どもです。不安や心配は子どもにすぐに伝わります。

「共に育てる」パートナーとして、大人の知恵を合わせてまいりましょう。

「子育て相談室」『すくすく』を開設します。



専門相談員は臨床心理士の雲財啓先生です。これまで本園の子どもたちへの支援について、数年にわたりアドバイスをいただいております。大変頼りになる存在です。

この度、本園では、2ヶ月に1回程度のペースで、子育て相談室『すくすく』を開催します。どうぞ、お気軽にご利用下さい。

また、これまでどおり、担任をはじめ園にも直接ご相談ください。お待ちしております。詳しくは別紙文書にてご案内します。

忙しい?今だからこそ…
「ゆっくりなほど、
深く身に付く」



「忙しい」という文字は、「心」を「亡くす」という組み合わせです。コロナ禍、デジタル化の中で、大人の生活は園でも家庭でも何かと慌ただしく、せわしくなっているように感じます。そうした中、「ファーストフード」の手軽さや便利さに対する「スローフード」や「スローライフ」という動きが起きたのは、20年ほど前です。

さて、今、海外では「スローペダゴジー(ゆっくりの教育学)」や「slow knowledge」「slow looking」を唱える研究者たちがいます。ここでの「スロー」というのは、スローモーションのような時間を引き延ばすという意味ではありません。「ゆっくりなほど、深く身に付く」という発想です。丁寧に関わって身に付けたものこそ、生涯にわたる知恵になり、反対に急いで身に付けさせようと伝えたものは、情報と同じですぐに忘れられていくという考えなのです。

ゆっくりの教育学の視点が、「slow looking(ゆっくり見ること)」と子どもの声を聴くことから始まります。新鮮な目で、探究する気持ちを持って、細かな点に気が付き、誰もが心地よい状況で見えることで、今まで見えなかったものが見えたり、聞こえなかった声が聞こえたりします。幼児期は特に言葉の表現が不十分なので、幼児の思いや願いを理解しようとする大人の働きかけが重要になります。日々の園生活でも、子どもの息遣いに合わせて保育者が共に楽しんでいると、子どももゆったり、しっかりと、安心して遊び込むことができることでしょうか。コロナ禍の忙しい日々の中だからこそ、幼児期にふさわしい生活(園や家庭)を過ごせるよう意識していきたいものです。

「1人の100歩より、100人で一步をめざそう!」

一人のスーパースターで成り立つのではなく、教職員の多様性を生かし、まずは一歩着実に積み重ねて繋がり合っていく—そんな組織でありたい。育ち合いが生まれる。「育つ幼稚園」をめざしています。

